

庄原市子供の読書活動推進計画

(第四次計画)



令和4年3月
庄原市教育委員会



はじめに

「ま、ぼちぼち いこかー ということや。」
「ああ ここがいい。ちいさいおうちもそう思いました。」
「もしもしおばあちゃん、元気？ボク、会いたくて、会いたくて」

これは小学校で取り組んでいる絵本の読み聞かせの一コマです。高学年が低学年の前で心を込めて読むために、一生懸命練習をしてきて、登場している人物や動物などになりきって読んでいます。



「庄原の子供はいつも今読んでいる本が鞆に入っています」を合言葉に、家庭をはじめ学校や図書館の積極的な取り組みにより、自ら本を手に取り、読む、学ぶ、考える、子供を育成しています。スマートフォンやゲームなどに時間を費やすのではなく、子供も大人も一緒に本に親しみ、心豊かになる読書を推進しています。

本には「力」があります。

本を読んで、物の見方や考え方が変わることがあります。本を読んで、人が生き方を変えるということもあります。本を読んで、元気になる力があるとか、笑わせる力、泣かせる力、楽しくする力といったこととは重みが違う力があるということです。本には、深く感動する、強い衝撃を受ける、共感する、反省させられる、考えさせられるなど、人生に影響をもたらす力があります。

本をたくさん読む人は、たくさんの言葉を知り、たくさんの知識をもち、感受性や思考力も豊かになります。自分で感じたことや考えたことを自分の生き方として大事にしますし、他人の考え方も尊重します。本をたくさん読む人は、自分がより善く生きることを探す力があります。間違っていないか考える力があります。本をたくさん読む人は、悩みや問題があるときに、それを解決しようとする力や前を向いて進もうとする力を培っています。本には、人がより善く生きるための「力」があるからです。

私たちは、読書によって、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにしていくことができます。読書は、激しく変動する社会の中で人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。私たちの生活を振り返り、もう一度、読書の魅力、素晴らしさ、良さについて、しっかり考えてみましょう。

このたび、「庄原市子供の読書活動推進計画（第四次計画）を策定しました。

この計画は、第三次計画の取り組みと事業の成果や課題を踏まえ、子供たちの読書活動の充実を図るとともに、「本に親しむ」「目的に応じて読む」「本から学び自らの考えを深める」などの読書習慣の形成に向け、読書環境づくりに力点をおいてつくっています。時間を見つけて読書する子供が増えていくことを願い、「読書のまち庄原！」となるよう着実な取り組みを行ってまいります。

令和4年3月

庄原市教育委員会 教育長 牧原 明 人

目 次

ページ

はじめに

施策体系図

第1章 子供の読書活動推進計画（第四次計画）の基本的な考え方・・・1

- 1 計画の趣旨
- 2 第三次計画の検証
- 3 計画の期間
- 4 計画の対象
- 5 計画の進捗状況の確認
- 6 子供の読書活動推進計画期間（国・県・本市）

第2章 読書習慣の形成に向けた取り組み・・・5

■ 本に親しむ・・・5

- 1 家庭における読書活動の推進
- 2 地域における読書活動の推進
- 3 幼稚園・保育所・認定こども園における読書活動の推進
- 4 学校における児童生徒の実態に応じた取り組みの推進
- 5 学校における児童生徒の読書機会の確保

■ 目的に応じて読む・・・16

- 6 学習指導要領を踏まえた読書活動の推進（学校）

■ 本から学び自らの考えを深める・・・18

- 7 図書館資料の展示及び提供（地域）
- 8 本を読んで自分の考えを形成し表現する取り組みの推進（学校）

第3章 読書習慣の形成を育む環境づくり・・・21

■ 読書指導の構築・・・21

- 1 地域のボランティア等、多様な人々の参画（地域）
- 2 図書館職員のスキルアップ研修（地域）
- 3 司書教諭等のスキルアップ研修（学校）
- 4 学校司書の配置及びスキルアップ研修（学校）

■ 市立図書館・学校図書館の環境づくり・・・25

- 5 市立図書館の環境（地域）
- 6 学校図書館の環境（学校）
- 7 市立図書館と学校図書館との連携（地域・学校）

用語解説・・・30

子供の読書活動推進計画（第三次計画）検証一覧・・・32



庄原の子供はいつも今読んでいる本が鞆に入っている

読書習慣の形成に向けた取り組み

目的に応じて読む

学習指導要領を踏
まえた読書活動の
推進

本に親しむ

家庭における読書活動の推進

地域における読書活動の推進

幼稚園・保育所・認定こども園に
おける読書活動の推進

学校における児童生徒の実態に
応じた取り組みの推進

学校における児童生徒の読書機会
の確保

本から学び自らの
考えを深める

図書館資料の展示
及び提供

本を読んで自分の考
えを形成し表現する
取り組みの推進



読書習慣の形成を育む環境づくり

読書指導の構築

- ・ 地域ボランティア等、多様な人々の参画
- ・ 図書館職員のスキルアップ研修
- ・ 司書教諭等のスキルアップ研修
- ・ 学校司書の配置及びスキルアップ研修

市立図書館・学校図書館の環境づくり

- ・ 市立図書館の環境
- ・ 学校図書館の環境
- ・ 市立図書館と学校図書館との連携

第1章

子供の読書活動推進計画(第四次計画) の基本的な考え方



第1章 子供の読書活動推進計画（第四次計画）の基本的な考え方

1 計画の趣旨

子供時代の読書量が、大人になってからの各種能力の高さにつながる(後略)。これは、国立青少年教育振興機構が、令和3年8月に公表した調査結果の一部です。

読書活動は、子供が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにするなど、人生をより深く生きる力を身につけていく上で、欠くことのできないものです。

子供の読書離れが指摘(文部科学省 HP より)されていることから、「子どもの読書活動の推進に関する法律」(平成13年法律第154号)においても、すべての子供があらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない」と規定されています。

本計画では、「庄原市子供の読書活動推進計画(第三次計画)」を検証し、国及び県の方針を受け、子供の自主的な読書活動や学習意欲の向上、それらを通じた自己表現への展開に結びつく具体的な施策や子供の読書環境の整備を行うことにより、本を好きになり「いつも今読んでいる本が鞆の中に入っている」子供の育成を目指します。

2 第三次計画の検証

第三次計画では、具体的な施策を設定し、様々な事業に取り組んできました。

庄原市立図書館(以下「市立図書館」という。)では、「赤ちゃんが絵本に触れ合う活動」「絵本の読み聞かせ」等、本を読むためのきっかけづくりを重点的に行いました。これは、子供の想像力・表現力・語彙力の向上に、絵本の力が大きく貢献していること



「絵本の読み聞かせ」

に着目したからです。乳幼児期の子供は、絵本などのお話が大好きです。身近な人に絵本の読み聞かせをしてもらうことは、子供の豊かな心を育て、読書への意欲を高めることにつながります。幼稚園・保育所等では、毎日、絵本の読み聞かせを実施しています。絵本の持ち帰りや、保護者に対するおすすめの絵本の紹介により、本に親しむきっかけづくりを継続して実施できました。読書ボランティアによる、市立図書館・学校・幼稚園・保育所等での読み聞かせや交流する場の創設など、市民との協力・連携による取り組みも進めることができました。

小中学校では、推薦図書を選定や紹介を通して、読書の楽しさを味わい、本を読むことの習慣化や読む力の育成にも力を入れ、指導してきました。また、子供司書の養成に力を入れ、これまで122名(令和3年度末現在)が、県教育委員会から認定され、自ら積極的に読書することはもちろんのこと、学校内外の読書活動の推進に活躍しています。

また、読書感想文や小論文等の作品コンクールへの参加も進め、本を読んだことを表現する機会の提供にも取り組んできました。さらには、10名の学校司書を配置し、学校図書室（または学校図書館。以下「学校図書室」という。）での選書や配架、図書に関する情報発信など読書活動推進のための環境づくりを進めてきました。



子供司書 「読み聞かせ」の研修

第二次計画では、個々の活動・事業を実施する中で、家庭、地域、学校、読書ボランティア間での情報共有、連携が不十分という検証結果もみられたため、第三次計画では、これらが連携できる組織として、「庄原市家庭教育支援チーム」を設置しました。このことにより、支援チームでは意見交換や情報共有がより進み、機会を重ねた結果、令和元年度には市立図書館において「図書館まつり」を開催することができました。また、令和2年度には、おすすめの本を紹介するブックリストの作成や絵本の購入を実施できました。

市内各学校においても児童生徒の読書活動推進に関わる特色ある取り組みが進められました。その成果として、過去5年間では美古登小学校、比和中学校、東小学校が、「子供の読書活動優秀実践校」として文部科学大臣表彰を受けています。

平成29年度、美古登小学校は、読書センターだけでなく学習センター、情報センターとしての機能の充実を図った環境整備等が評価され、翌年度には、比和中学校が、生徒の読書意欲や読書状況の向上に大きく貢献した日頃の取り組みを認められました。さらに令和2年度、東小学校が、長期にわたって読書ボランティアとの連携により、読み聞かせや「図書まつり」のイベントなどを通して児童の読書活動を推進してきたことが評価された結果です。

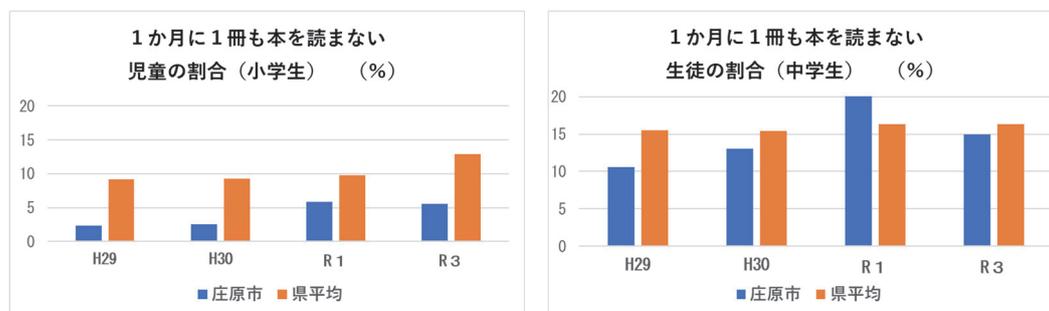
また、口和中学校は、生徒が地域の高齢者宅を訪問し、読み聞かせをするボランティア活動「ホントノキズナ」プロジェクトを継続していること等が認められ、「令和2年度広島県教育奨励賞」を受賞しました。

このほかに、高小学校が、毎年度、全校児童が行っている古典や詩などの名文暗唱の取り組みを「平成30年度けんみん文化祭ひろしま」においてアトラクション出演として発表しています。

このように、各学校では児童生徒の読書活動の推進に向け、自校の特色を生かした取り組みを創意工夫しています。

一方で、全国的に年齢が上がるにつれ読書離れをしていることが課題といわれますが、本市においても同様の傾向が見られるようです。小学校5年生と中学校2年生を対象に毎年実施されてきた広島県の調査において、「1か月に1冊も本を読まない子供」の割合を見てみると、小学生の不読率は県平均に比べ、低く推移していますが、

中学生になると不読率が高くなる傾向で推移しています。この要因としては、全国的に中学生になるとスマートフォンやタブレット等、様々なメディアの使用も増えたり、部活動などのため読書時間が確保できなかったりという子供達を取り巻く環境の影響も考えられます。各学校とPTAの連携で、アウトメディア※¹の取り組みも実施されており、引き続き、読書習慣が継続するよう取り組む必要があります。



(※令和2年度はコロナ禍のため調査なし)

広島県「基礎・基本」定着状況調査・児童生徒学習意識等調査

第三次計画を推進してきた結果、幼稚園や保育所等での毎日の読み聞かせを継続して行うことができました。また、幼児期から親子で絵本に親しむきっかけづくりとして、4か月児育児相談の場では、読み語りボランティアの協力のもと、「絵本の読み語り」と「絵本を保護者へ手渡す活動」をセットで行ったり、1歳6か月児健診の機会でも「絵本を保護者へ手渡す活動」を行い、乳幼児が絵本に親しむきっかけづくりを継続し、第三次計画の5年間で、1,900人余りの子供達へ配付しました。また、学校司書の拡充を県内他市町に先がけて取り組み、読書活動推進のための環境づくりを進めてきました。

県の第四次計画にある取り組みの柱の一つである「本に親しむ」は、多読のみを求めているのではなく、読書の質の向上も必要であるという意味を込めた形でまとめられています。本市でも、家庭での読み聞かせをはじめ、幼稚園や保育所等など乳幼児期からの取り組みが、読書習慣の形成につながる重要な取り組みと捉え、第四次計画では、こうした点も十分検討した読書活動を推進する必要があります。



高野小学校読書風景

庄原市教育振興基本計画においても「学校・家庭・地域の連携」を基本目標の一つに掲げており、一緒に取り組むことをとおして子供を育てることを進めています。それぞれが情報を共有しながら、子供が読みたいと思う本に出会い、いつでも本を読める環境づくりや推進体制の整備を一層進めていく必要があります。

第三次計画での全ての取り組み項目の検証結果については、「第三次計画の評価一覧」(資料32・33ページ)に整理しています。

※の用語解説は、30・31ページに記載しています。

3 計画の期間

本計画の期間は、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。

4 計画の対象

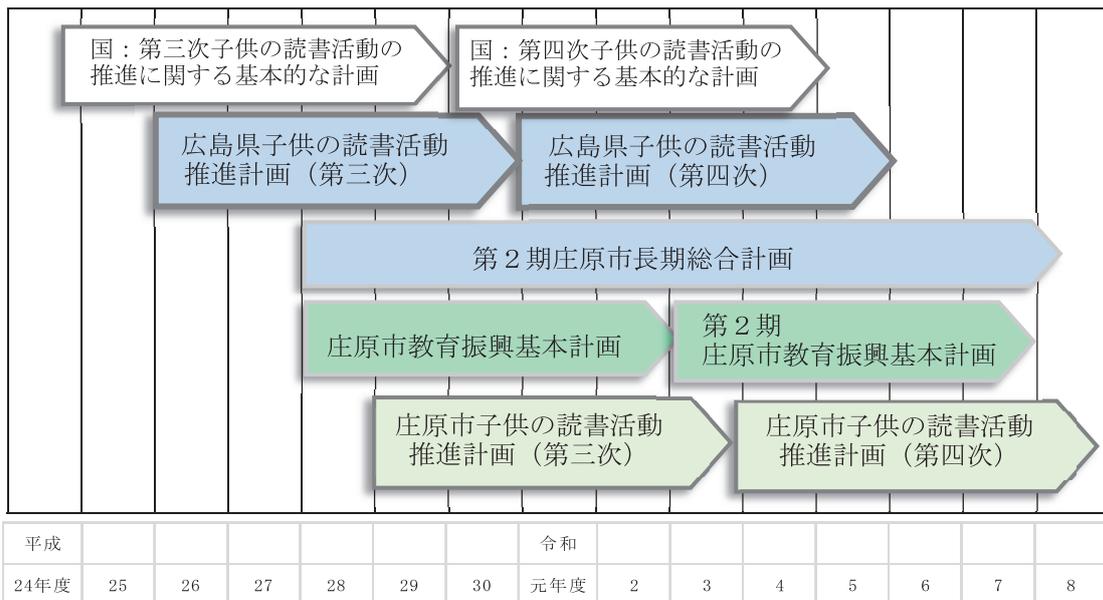
本計画で対象とする「子供」とは、0歳から概ね18歳までの者とします。

また、子供の読書活動推進に対する理解の必要性から、幼稚園・保育所・認定こども園・放課後児童クラブ・放課後子供教室・子育て支援センター・保健福祉センターなどの子育てに関係する施設（以下「子育て関係施設」という。）、学校、家庭や地域も対象とし、行政と市民が協力して活動・事業を推進していきます。

5 計画の進捗状況の確認

本計画を効果的に推進するため、具体的施策の進捗状況について、毎年庁内関係課や庄原市図書館協議会において確認することとします。

6 子供の読書活動推進計画期間（国・県・本市）



人生に三度読むべき『絵本』

「人生に三度」とは、まず自分が子供の時、次に自分が子供を育てる時、そして自分が人生の後半に入った時という意味です。特に、人生の後半、老いを意識したり、病気をしたり、あるいは人生の起伏を振り返ったりするようになると、絵本から思いがけず新しい発見というべき深い意味を読み取ることが少なくないと思うのです。

生きていく上で一番大事なものは何かといったことが絵本の中にすでに書かれているんですね。

【「絵本の力」（岩波書店）の中から抜粋 作家：柳田邦男の言葉】

第2章

読書習慣の形成に向けた取り組み

- 本に親しむ
- 目的に応じて読む
- 本から学び自らの考えを深める



■本に親しむ

1 家庭における読書活動の推進

私たちの身の回りの生活は、インターネット・スマートフォン等の普及により、子供の生活環境へ変化が見られ、情報をたやすく収集することができるようになった一方、情報選択や内容の吟味、文章を読み解くことがゆっくり時間をかけて行うことが少なくなってきたという指摘もあります。

読書活動は、だからこそ子供が読書の楽しさや良さを知り、自ら読書する態度を身につけることが大切です。

すべての教育の出発点は家庭であり、子供が成長する過程で、保護者も一緒になって読書を楽しむよう、家庭・地域・学校と連携した環境づくりをすすめていきます。

目標

① 乳幼児・保護者へのはたらきかけ

- ◆ 参加型体験型学習プログラム（親プロ）を推進します。
- ◆ ブックスタートを継続して取り組みます。

② 児童生徒・保護者へのはたらきかけ

- ◆ PTAを通じて家庭での読書活動を推進します。
- ◆ 青少年サービスの情報を提供します。
- ◆ アウトメディアの取り組みを推進します。

現状

● 保護者の読書活動への意識醸成

『“親の力”をまなびあう学習プログラム事業』（通称『親プロ』^{※2}事業）を活用し、自治振興区と連携しながら、保護者自身も一緒に読書を楽しみながら読書に親しむ環境づくりを行っています。



親プロ実施状況



親子で読んでほしい絵本リスト

● 赤ちゃんが絵本に触れ合う活動の継続

平成28年度から令和4年1月まで1,110人の4か月児と1,186人の1歳6か月児に絵本を配布し、事業の充実を図っています。

また、乳幼児向け「ことばのプレゼント」を発行し、絵本の配布時にいっしょに配布し、親子で読んでもらいたい絵本リストとして保護者に紹介しています。

● 子供が図書に触れる機会の充実

各学校において、学校図書館の取り組み・おすすめ本の選定など、「学校だより」や「図書室だより」の発行で周知に努めています。

● 青少年サービスの充実

地元高校と連携したポップ※³作成や社会情勢にもとづいたヤングアダルトコーナー※⁴の充実を図っています。



地元高校生によるポップ作成

具体的な取り組み



ブックスタート※⁵の様子

○ 乳幼児・保護者へのはたらきかけ

- ・ 自治振興区と連携し、「親プロ」を活用した参加型体験学習プログラムを進めていきます。
- ・ 乳幼児期から親子で絵本に親しむきっかけづくりとして、「赤ちゃんが絵本に触れ合う活動」を継続します。

○ 児童生徒・保護者へのはたらきかけ

- ・ PTAと連携してPTAだよりや講演会を通じて、家庭読書の推進を進めます。
- ・ 高校の図書担当教諭・学校司書との情報共有を図りニーズに合った選書を行います。
- ・ 社会情勢を鑑みながら、ヤングアダルトコーナーの設置・充実を図ります。



ヤングアダルトコーナー

- ・ 各学校では、アウトメディア週間を通して、生活習慣を見直し、読書の時間を増やす取り組みを行います。

ほんわかリズムデイ チャレンジカード				
	5月18日(火)~5月20日(木)	6月27日(日)~6月29日(火)	10月5日(火)~10月7日(木)	11月28日(日)~11月30日(火)
読書レベル	レベル1 できれい(1)~最後までできな(1)も*	レベル2 できれい(1)~最後までできな(1)も*	レベル3 できれい(1)~最後までできな(1)も*	レベル4 できれい(1)~最後までできな(1)も*
1日目	18日 ① 9:30	27日 ① 9:30	5日 ① 9:30	28日 ① 9:30
2日目	19日 ① 9:30	28日 ① 9:30	6日 ① 9:30	29日 ① 9:30
3日目	20日 ① 9:30	29日 ① 9:30	7日 ① 9:30	30日 ① 9:30
目標達成	レベル1に到達して、家族への会話がふよみました。読書や手紙がたくさんできました。	いつもお歌を聴くことのできた。読書がもっと好きになりました。	ほんわかリズムデイの思い出が、1冊の本の贈り物や読書がたくさんできました。	18日と28日の2日、目標達成はすかしがたです。頑張ってください。
おうちの人へのメッセージ	読書や手紙がたくさんできました。おうちの人へお礼の手紙を書きました。	おうちの人へお礼の手紙を書きました。おうちの人へお礼の手紙を書きました。	読書や手紙がたくさんできました。おうちの人へお礼の手紙を書きました。	読書や手紙がたくさんできました。おうちの人へお礼の手紙を書きました。
読書のサイン	読書や手紙がたくさんできました。おうちの人へお礼の手紙を書きました。	読書や手紙がたくさんできました。おうちの人へお礼の手紙を書きました。	読書や手紙がたくさんできました。おうちの人へお礼の手紙を書きました。	読書や手紙がたくさんできました。おうちの人へお礼の手紙を書きました。

口和小学校アウトメディアの取り組み例

※ メディアに触れない時間に応じて目標レベルを設定し、達成状況をチャレンジカードに記録します。

コラム

読書活動は、子供の感性、表現力、創造力などを豊かにするなど、より深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものです。様々な読書活動がありますが、今回は「絵本の読み聞かせ」の魅力について触れたいと思います。

本市においても「絵本の読み聞かせ」の活動は、保育所、幼稚園、学校、図書館、ボランティア団体などにおいて行われています。今後も機会をつくって積極的に「絵本の読み聞かせ」を行い、子供たちに本の楽しさを味わわせ、読書意欲を高め、幼少期から読書習慣の基盤をつくりたいものです。

特に、親をはじめとする家族の皆様には、毎日、いえ時々でも、夜の眠りにつく前や食後など、5分か10分でいいのです、読み聞かせができないでしょうか。絵本が準備できない場合は「お話」でもよいと思います。

こうした読み聞かせをしてもらった子供が成人となり、再びその「絵本」に出会ったときの「ある学生」と「ある大人」の話です。

「ある学生」は、読んでもらっていた部屋の「様子や匂い」、祖母の「膝の上の感触とぬくもり、しぐさ、口調」など、その当時の情景までもよみがえってきたといいます。

また「ある大人」は、父親と一緒に風呂に入ったとき、いつも父親が「絵本の話」をして、「この続きは今度！」とあって終わっていたこと、そして、これからどうなるのだろうか楽しみに待っていて、待ちきれないときは、その本を図書室で探していたことを思い出したといいます。

いずれも家族に愛されて育てられたことや自分はかけがえのない存在なのだ改めて気づかされたと話しています。絵本を介した記憶は、これからも心の支えとなり、成長の源となることでしょう。読み聞かせの魅力の一つです。

教育長メッセージ（平成29年2月号より抜粋）



おはなし会の様子

2 地域における読書活動の推進

子供の読書活動を推進するためには、子供が読書活動をより身近に感じられる環境を整えるとともに、おはなし会などのイベントをとおして、より読書に親しむ取り組みが必要です。

市立図書館は、地域における読書活動の中心的役割を担っていることから、推薦図書を紹介するとともに、おはなしボランティアと連携した読書イベントの実施、学校・地域と連携した読書活動を推進する取り組みを実施します。

目標

① イベントをとおした啓発

- ◆ おはなし会など読書に親しむイベントを開催します。

② 学校図書館の支援（市立図書館）

- ◆ 市立図書館と連携した学校図書館の活用促進を図ります。

③ 家庭と連携した活動の支援

- ◆ おすすめの本や展示内容について、市内の幼稚園・保育所・認定こども園・子育て関係施設や学校に積極的に情報提供します。

現状

● 「子ども読書の日」※6「読書週間」※7にちなんだ読書企画の実施

市立図書館では、子ども読書の日や読書週間にあわせ、子供から大人まで楽しめる本を選書し、展示を行っています。

関連としては、時事・学校行事に合わせた企画展・ぬいぐるみのお泊り会なども実施し、子供や家族での読書の楽しみを伝える取り組みを行っています。



読書週間の企画展示

● 市立図書館における読書関連事業の実施



図書館祭りの様子

令和元年度、田園文化センター開館 30 周年記念事業「図書館祭り」の実施やボランティア団体と連携した毎月の「おはなし会」をとおして、子供たちが読書に興味をもつ取り組みを実施しています。

また、館内では、四季の行事や時事、読書ボランティアの推薦本などをテーマに企画展示し、子供司書研修会ではポップづくりを実施するなど、子供自身が図書に興味・関心が湧くような取り組みを実施しています。

具体的な取り組み



「ぬいぐるみのお泊り会」の様子

○ イベントをととした啓発

- ・ 引き続きボランティア団体と連携した「おはなし会」や館内の企画展示を継続して取り組みます。
- ・ ミニイベントをととして、子供が関心をもつような企画の実施や情報発信を行います。

○ 学校図書館の支援（市立図書館）

- ・ 学校司書と連携し、「子ども読書の日」「古典の日」に合わせた取り組みを行います。
- ・ 学校司書との研修会や打ち合わせ会の実施、また、学校との連携をとりながら市立図書館の充実を図ります。



西城紫水高校による地域貢献（市立図書館支援）

○ 家庭と連携した活動の支援



おはなし会の様子

- ・ おすすめ絵本を紹介するブックリストを活用した情報提供を積極的に行います。
- ・ 各種団体と連携し、保護者が読み聞かせの大切さや工夫などについて学ぶことができる「参加・体験型プログラム」の学習機会の提供を促進します。

- ・ 地域において家庭教育支援活動を実施するため「庄原市家庭教育支援チーム」を設立しています。この支援チームを中心として、各エリアで出た意見やアイデアなどを集約し、市立図書館で情報を共有しながら、効果的な取り組みにつなげます。



庄原市家庭教育支援チーム会議の様子



支援チームが作成したパネル

3 幼稚園・保育所・認定こども園における読書活動の推進

読書は、子供の思考力、判断力、表現力などを育み、豊かな人生を生きる基盤となります。本が子供たちにとって身近な存在となるように、日頃から本に親しむことが大切です。特に乳幼児期から身近な人に絵本を読み聞かせてもらうことは、子供たちが多くの言葉と出会い、心豊かに育つとともに、読書意欲を高めることにつながります。そのことは、就学前の段階で家庭において本や絵本の読み聞かせがよく実施されていた場合には、高校生の不読率^{※8}が低い傾向にあるという統計結果からもうかがえます。

子供にとって魅力的で楽しい「大好きな1冊」に出会うきっかけをつくるため、乳幼児の生活の様々な場面で本に親しむ機会を提供していきます。

目標

① 幼稚園・保育所・認定こども園における取り組みの充実

- ◆ 幼稚園・保育所・認定こども園（以下「園・所」という。）では、毎日の読み聞かせ実施100%を継続します。
- ◆ 家庭での親子の読書を奨励します。
- ◆ 保護者と連携した読書の取り組みの充実を図ります。

② 市立図書館や子育て関係施設における絵本の整備

- ◆ 市立図書館の乳幼児向け絵本の充実を図ります。
- ◆ 市立図書館と子育て関係施設が連携し施設の充実を図ります。

現状

● 園・所で本に触れる機会の提供

園・所では、幼稚園教諭や保育士による絵本の読み聞かせを毎日行っています。また、外部の読み聞かせボランティアにより、絵本に触れ合う機会を作っています。

さらに、園・所では「絵本袋」を用意し、絵本を自宅に持ち帰り保護者と一緒に読んでもらう取り組みも行っています。



絵本の持ち帰り（絵本袋）

● 市立図書館・子育て関係施設における乳幼児向け絵本の充実



本館の絵本配架状況

市立図書館と子育て支援施設が連携し、市立図書館で除籍した絵本も活用し、乳幼児が身近な施設で絵本が手に取れるよう取り組みを行っています。

また、コロナ禍における読み聞かせは、感染症対策を十分とりながら「実施しない」ではなく工夫をこらして「実施する」方向で取り組んでいます。

○毎日読み聞かせを実施している施設の割合

実施施設数	実施割合
22 施設	100%

○ボランティア団体が読み聞かせをしている施設の割合

実施施設数	実施割合
11 施設	50%

○保護者におすすめの絵本を紹介している施設の割合

実施施設数	実施割合
12 施設	54.5%

○親子参加での読み聞かせを実施している施設の割合

実施施設数	実施割合
4 施設	18.1%



読書風景

具体的な取り組み

○ 園・所における取り組みの充実

- ・ 幼稚園教諭や保育士、読書ボランティアなどによる毎日の読み聞かせを継続して行います。
- ・ 園・所では、絵本の持ち帰りや、保護者に対するおすすめ絵本の紹介により、絵本をとおして親子のふれあいの時間、読書環境の充実を図ります。
- ・ 家庭での読書の取り組みを把握するとともに、施設からの便り等を活用しながら、家庭での読書の推進を図ります。



絵本の読み聞かせ

○ 市立図書館や子育て関係施設における絵本の整備

- ・ 市立図書館では、乳幼児向けの図書や保護者向けの読書推進に関する図書をリクエスト等も活用しながら計画的に収集します。
- ・ 市立図書館と子育て関係施設が連携し、子育て関係施設の絵本の入れ替えや巡回の仕組みづくりを行います。

コラム

「絵本で子育てを楽しく」

子供は、お父さんやお母さんや家族の音が大好きです。

絵本を読んでもらったり、おはなしやうたを聞いたりすることは、ことばを覚えたり興味・関心を広げたりする大切な機会です。

(文部科学省「今日からはじめてみませんか絵本の読み聞かせ」より)

4 学校における児童生徒の実態に応じた取り組みの推進

子供が生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を身に付けるためには、家庭はもちろんのこと、学校も大きな役割を担っています。

学校では、児童生徒の発達段階や実態に応じて、本に親しませ、読書への関心を高める取り組みを推進、充実させることが重要です。

目標

① 小中学校における推薦図書を選定と紹介

- ◆ 図書担当教諭や学校司書、図書委員会などによるおすすめ本の選定・リスト作成 100%を目指します。
- ◆ 選定したおすすめ本を児童生徒などに紹介します。

② 児童生徒の読書活動の推進につながる取り組みの充実

- ◆ 児童生徒、教職員、保護者、地域ボランティアによる読み聞かせを実施します。
- ◆ 児童生徒同士の読書本紹介やビブリオバトル^{※9}など、参加型読書活動を実施します。

③ 「子供司書」養成講座の継続実施

- ◆ 「子供司書」養成講座を継続して実施し、子供読書活動推進リーダーの育成に努めます。

現状

● 小中学校における推薦図書を選定と紹介

教科書に掲載されている本や国語科の教材文の筆者が執筆した本を、特設コーナーを設置して紹介したり、PTAや読書ボランティア等が選書、紹介した本を「おすすめ本コーナー」において紹介したりしています。

また、「図書だより」などに学校司書のおすすめ本や新着図書を紹介しています。



板橋小学校
図書委員会のおすすめ本コーナー

● 児童生徒の読書活動の推進につながる取り組み

朝の読書活動の時間などを利用して、自ら選んだ本を読むことはもちろんのこと、教職員やPTA、地域の読書ボランティアなどによる読み聞かせを実施しています。また、図書委員会やボランティアによる活動として児童生徒による読み聞かせを実施しています。

国語科の授業を中心に、児童生徒が推薦本を紹介し合う活動や読んだ本について感想を伝え合う活動を行っています。また、平成28年度の庄原市教育フォーラムでの中学生によるビブリオバトル実施以降、継続して校内でビブリオバトルを行っている学校もあります。



口和中学校 生徒による地域の方への読み聞かせ



小奴可小学校 ビブリオバトル

● 「子供司書」養成講座の実施状況

児童の読書活動を推進するリーダーの育成をし、学校や地域で読書の楽しさや大切さを広めていくことを目的に、市内小学校第5・6学年の児童を対象に「子供司書」養成講座を継続して開催しています。

「子供司書」養成講座受講者	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
	14人	19人	14人	17人	17人

具体的な取り組み

○ 小中学校における児童生徒の発達段階に応じた推薦図書の選定と紹介

- ・ 発達段階に応じて児童生徒が様々な本に触れることができるよう、図書担当教諭や学校司書^{※10}を中心に、おすすめ本の選定・リストの作成を行います。また、おすすめ本の選定には児童生徒も関わるよう工夫します。
- ・ 選定したおすすめ本は、読み聞かせやブックトーク^{※11}の実施、コーナー設置、「図書だより」への掲載などにより、児童生徒や家庭に紹介します。

○ 児童生徒の読書活動の推進につながる取り組みの充実

- ・ 児童生徒、教職員、保護者、地域ボランティアによる読み聞かせを実施します。
- ・ 読書感想交流やポップの作成といった児童生徒同士の読書本紹介や、ビブリオバトルなど、発達段階に応じた参加型読書活動を実施します。

○ 「子供司書」養成講座の継続実施

- ・ 読書活動推進リーダーを育成するため、「子供司書」養成講座を継続して実施します。「子供司書」に必要な知識や技能を身に付け、読書活動推進リーダーとなるよう、講座の内容を工夫します。
- ・ 学校や市立図書館では、「子供司書」が読書活動推進リーダーとして活躍できる機会の提供を行います。

5 学校における児童生徒の読書機会の確保

子供がよりよい読書習慣を身に付け、自らの読書の幅を広げるためには、様々な本に触れる機会を確保することが重要です。

目標

① 読書をする児童生徒の割合の増加

- ◆ 1か月に3冊以上本を読む児童生徒の割合を小学校は80%、中学校は50%以上を目指します。
- ◆ 1か月に1冊も本を読まない児童生徒の割合を小学校は5%、中学校は15%以下にします。

② 全校一斉読書活動の充実

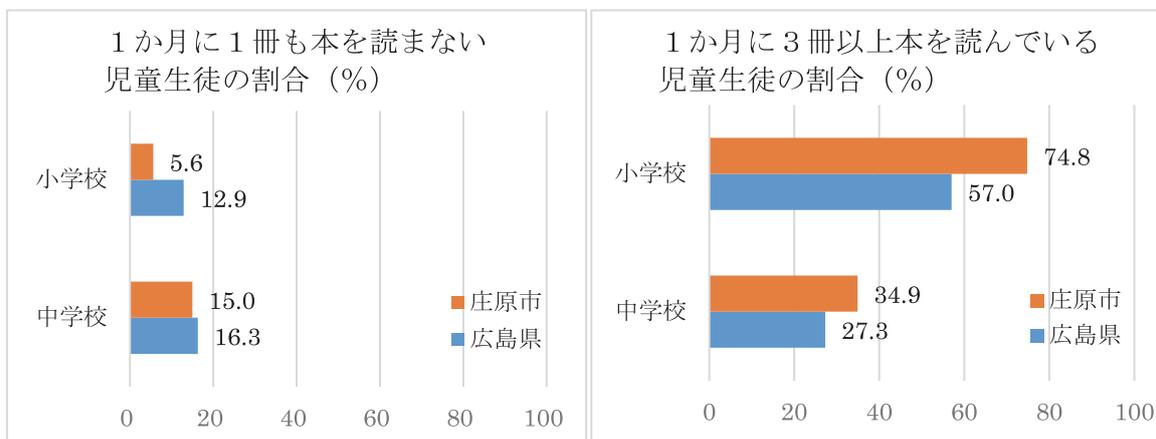
- ◆ 「朝の読書活動」など、全校一斉の読書活動の実施100%を継続します。

③ 小中学校における「子ども読書の日」(4月23日)、「古典の日」^{※12}(11月1日)の取り組みの充実

- ◆ 「子ども読書の日」や「古典の日」を年間指導計画に位置付けて指導します。

現状

● 児童生徒の読書の状況



参考：令和3年度広島県児童生徒学習意識等調査

● 全校一斉読書活動の実施状況

市内すべての小中学校において、朝の読書活動など、継続した読書活動に取り組んでいます。



東城中学校 朝の読書活動

● 小中学校における「子ども読書の日」、「古典の日」の取り組み

市内すべての小中学校において、「子ども読書の日」や「古典の日」に合わせて、読書ボランティアや図書委員会等による読み聞かせ、ポップなどによる本の紹介、俳句や短歌の作成などの活動を行っています。



東小学校
図書委員会の読み聞かせ



山内小学校
「古典の日」における学校司書の読み聞かせ

具体的な取り組み

○ 読書をする児童生徒の割合の増加

- ・ 児童生徒自身が「面白かった」「参考になった」など、友達に紹介したいと思う本のポップや紹介カードづくりなど、おすすめ本を紹介し合う活動を行います。
- ・ 学校図書購入の際には、推薦図書、課題図書のほか、児童生徒の意見も取り入れていきます。
- ・ 読書をしない児童生徒に対して、その要因を分析し、幅広いジャンルや様々な文章量の図書を提案するなど、要因に応じて該当児童生徒の読書意欲を高める取り組みを行います。

○ 全校一斉読書活動の充実

地域の読書ボランティアなどと連携した「朝の読書活動」や「図書祭り」の実施を継続します。

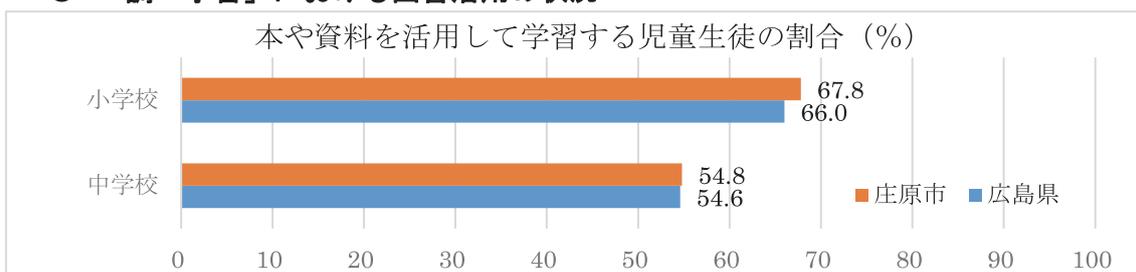
○ 小中学校における「子ども読書の日」「古典の日」の取り組みの充実

- ・ 「子ども読書の日」や「古典の日」を年間指導計画に位置付け、各教科等と関連を図った取り組みを継続します。
- ・ 児童生徒の読書への関心・意欲を高めるため、「子ども読書の日」や「古典の日」のテーマに合った企画や展示を行います。



粟田小学校「古典の日」と関連させた国語科の取り組み

● 「調べ学習」における図書活用の状況



参考：令和3年度広島県児童生徒学習意識等調査

すこいぞ こうじげんばの車
口北小学校 一年 藤岡 佑心

こうじげんばには、いろいろなしゅるいの車があります。どんなやく目が、あるのでしょうか。どんなつくりをしているのでしょうか。ショベルカーは、じめんをほったり、けずったりするやく目をしています。

この車は、ながいうでと大きくてじょうぶなバケットがついています。それをうごかして、とおいところやふかいところをほります。一どにおふる二十ばいぶんも土や石をすくうことができます。

やわらかいどろみちでもすすむことができますように、クローラーがついています。

(中略)

クレーン車は、おもいものをもち上げて、べつのところへはこぶやく目をしています。

この車は、のぼしたり、うごかしたりできるうでと、つりさげるためのフックがついています。二十四メートルのたかさまで、のぼすことができます。アフリカゾウ二とうのおもさのものを、フックにつけてつり上げることもできます。

おもいものをもち上げるために、タイヤだけではなくて、しっかりとした足がついています。足があるので、おもいものをつりあげても、たおれません。

こうじげんばの車は、たくさんの石や土を一どにたくさんはこんだり、おもいものをもち上げたりできるように、くふうされています。

ぼくは、こうじげんばの車は、やく目にあるように、かんがえてつくってあるから、かしこいとおもいます。人の力でできないことを、きかいが手つだえるようになっていきます。

もし、こうじげんばの車にであつたら、どんなやく目をしていて、どんなくふうがあるのか、見つけてみたいとおもいます。みなさんも見つけてみてください。

(参考にした本)『はたらくじどう車 しごととつくり ①ブルドーザー ショベルカー』

図書資料を活用した児童作文 (令和2年度庄原市児童生徒詩文集「さとやま十六」掲載作品)

具体的な取り組み

○ 読書活動年間指導計画に沿った読書活動の実施

- 読書活動年間指導計画などにに基づき、各教科等の学習に応じて図書を活用した学習活動や読書活動を推進します。
- 児童生徒の実態や発達段階を踏まえ、計画を毎年見直し、取り組みの充実を目指します。

○ 「調べ学習」の充実に向けた取り組み

- 国語科の発展学習、発展読書や科学研究など、様々な学習場面において、各教科等の学習に応じて図書の活用を進め、児童生徒の自主的な「調べ学習」を推進します。
- 学校図書館図書の整備・充実に加え、市立図書館との連携により、「調べ学習」に活用できる参考図書や図鑑等、資料の充実に努めます。



永末小学校 国語科における図書館活用



高野中学校 図書館での学習

■本から学び自らの考えを深める

7 図書館資料の展示及び提供(地域)

市立図書館は、子供がその豊富な蔵書の中から読みたい本を自由に選択し、読書の楽しみを知ることができる場所です。また保護者にとっても、子供に読ませたい本を選択したり、子供の読書について相談したりすることができる場所でもあります。

子供の読書への関心を高めるために、市立図書館として、乳幼児向けの図書や児童・青少年用図書など、発達段階に応じて、幅広い分野の図書に触れる機会や情報を提供したり、保護者や学校関係者、読書活動ボランティア等に本や資料の情報を提供したりして、地域における子供の読書活動の推進に中心的な役割を果たすよう努めます。

目標

○ 本から学び自らの考えを深める参考となる図書館資料の情報提供

- ◆ 中・高校生世代を対象とした生き方や進学・就職に関する図書資料の充実に努めます。
- ◆ 市立図書館では、利用促進のための広報啓発の充実に努めます。

現状

● 青少年用図書の整備

市立図書館では、中学生・高校生向けの図書を選書し、「ヤングアダルトコーナー」を設けて、新刊図書を含めた青少年時代にぜひ読んでもらいたい図書を紹介しています。

● 情報の提供

市立図書館では、「図書館だより」、ホームページ等で新刊本を紹介し情報の提供に努めています。



ヤングアダルトコーナー

具体的な取り組み

○ 本から学び自らの考えを深める参考となる図書館資料の情報提供

- ・ 児童期、青少年期に読んでもらいたい図書などの充実を図ります。
- ・ 中・高校生世代を対象に生き方や進学・就職等に関する図書資料の収集に努めます。
- ・ 市立図書館では、引き続き「図書館だより」、ホームページ等で新刊本を紹介したり、新刊や企画展示等のコーナーを設置したりして情報の提供に努めます。

8 本を読んで自分の考えを形成し表現する取り組みの推進（学校）

子供は読書を通じて、読解力や想像力、思考力、表現力を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりできるようになります。また、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体感し、さらなる探究心や真理を求める態度が養われます。

学校においては、様々な読書活動を通じて、児童生徒が自分の考えを形成し表現する取り組みを推進していくことが必要です。

目標

① 様々な本や資料をもとに自分の考えをもたせる学習指導の充実

- ◆ 図書や資料を活用し、自分の考えをもち、表現させる学習指導を継続します。

② 読書感想文コンクール等への積極的応募

- ◆ 学校外の読書感想文、小論文、意見文等、本や資料を活用した作品コンクールへの応募や、新聞等への投稿をしている学校を100%にします。

③ 読んだ本の読書感想を記録し、友達や家族と話す機会の充実

- ◆ 読んだ本についての感想や心に残った一文を書き留める活動を、学校や家庭で取り組むよう推進します。
- ◆ 読んだ本の内容について友達や家族と話す児童生徒の割合を、小学校は70%以上、中学校は60%以上にします。

現状

● 様々な本や資料をもとに自分の考えをもたせる学習指導

国語科において本を読んだ感想や自分の考えを書く活動、社会科や総合的な学習の時間において調べ、まとめる活動を行っています。

● 読書感想文コンクール等への応募や新聞への投稿

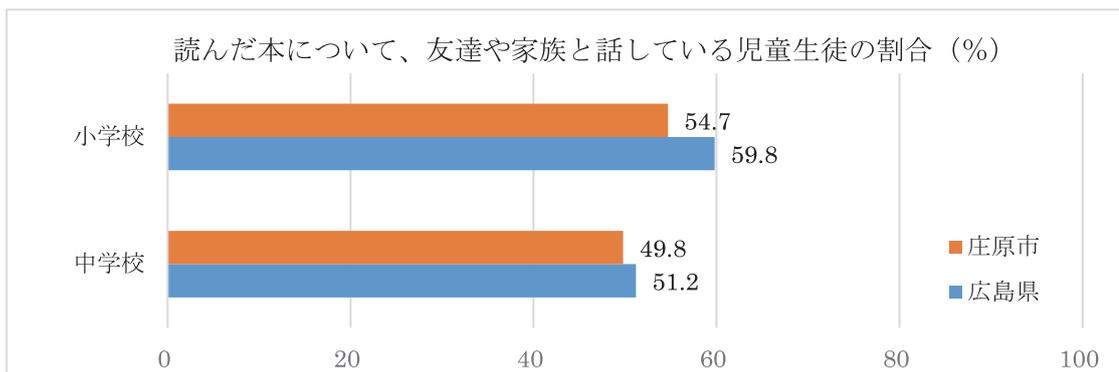
令和3年度に全国青少年読書感想文コンクールなど、読書に関わるコンクールへ応募している学校の割合 小学校 80.0% 中学校 85.7%

勇気くれた本の言葉

中学生 田川 瑠那 14歳
小学生の頃、本を読むことが嫌いだった。読めない漢字や文章量が多いからだ。
中学生になり少しずつ本を読むようになった。「私は私のままで生きることにした」という本から勇気もらった。
ページは多いけど絵もあり、読みやすい本だった。勇気をもたらした理由は、自分が悩んでいることや疑問への答えが書かれていて「あなたらしく、胸を張って生きていけばいいよ」と自信が付く言葉があるからだ。
この本の中に書かれている「あなたの人生だからこそ、しっかりと生き抜いてほしい」という文を毎日頭の中に入れて生活している。人は誰でも問題を抱えながら生きていくからこそ、それをマイナスに捉えないようにすることが大切だと思った。
本を読むことでたくさんのお考えや意見を深めることができる。読書はとても大切なことに気付いた。
(庄原市)

新聞に掲載された生徒の投稿（中国新聞 令和3年8月9日掲載）

● 読んだ本の内容について、友達や家族と話している児童生徒の割合



参考：令和3年度広島県児童生徒学習意識等調査

本当は一人でぜんぶ読めるけど

「読んで。」

とお母さんのひざにすわる絵本の時間

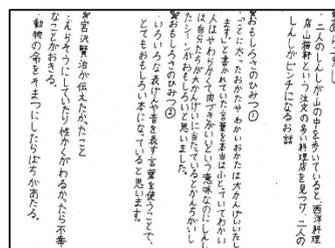
東小学校 2年 岩崎 薫

令和3年度広島県PTA連合会賞「楽しい子育て全国キャンペーン」～家族で話そう！
我が家のルール 家族のきずな 命の大切さ～三行詩 優秀賞作品

具体的な取り組み

○ 様々な本や資料をもとに自分の考えをもたせる学習指導の充実

国語科において学校図書館の本を読んだ感想や自分の考えを書かせる活動や、社会科や総合的な学習の時間において図書や資料を活用して、情報収集し、まとめ、考察する活動を継続して行います。



総領小学校 国語科で作成したリーフレット

○ 読書感想文コンクール等への積極的応募

- ・ 庄原市児童生徒詩文集「さとやま」など、様々なコンクールへの積極的な応募を促します。
- ・ 読書感想や読書を通して考えたことなどの新聞投稿を促します。

○ 読んだ本の読書感想を記録し、友達や家族と話す機会の充実

- ・ 国語科の授業だけでなく、「朝の読書活動」や「図書まつり」など学校行事の時間も活用し、読んだ本について児童生徒が感想を伝え合い、交流する機会を設定します。
- ・ 「図書まつり」など学校行事や授業参観日の機会をとらえて、保護者も参加することで、読んだ本について家族とも語り合い交流する機会を設定します。

第3章

読書習慣の形成を育む環境づくり

■読書指導の構築

■市立図書館・学校図書館の環境づくり



■ 読書指導の構築

1 地域ボランティア等、多様な人々の参画(地域)

子供の読書習慣は日常生活を通して形成され、読書習慣を身に付けるためには、地域や家庭、学校の存在は不可欠です。中でも、読書ボランティアの活動は、子供の読書活動の推進に大きく貢献しています。市立図書館では、おはなし会での活動機会の提供や、スキルアップを目的とした研修会を充実させていきます。

目標

○ 読書ボランティアへの活動の場の提供

- ◆ 読書ボランティアが活動できる場や、読書ボランティアのスキルアップのための研修機会を提供します。

現状

● 市内の読書ボランティアの活動

庄原市内には、絵本や紙芝居、児童書など様々な図書資料の読み聞かせを通して、積極的に本の持つ楽しさを伝える活動に取り組んでいる団体が多くあります。季節や時事の話題に合わせて読み聞かせや語りを行うことで「子供が読書を好きになるきっかけ」や「本に親しむきっかけ」づくりに取り組んでいます。



「青空おはなし会」

● 「おはなしボランティア講座」の開催

読み聞かせの際に必要な技量を身に付けることを目的とした「おはなしボランティア講座」を開催しています。さらに、読書ボランティア同士の交流を深め、さらなる広がりをもった活動に向けた取り組みを行っています。



「おはなしボランティア講座」

具体的な取り組み

○ 読書ボランティアへの活動の場の提供

読書ボランティアがより充実した活動を継続できるよう、活動の機会や場を提供するとともに、読み聞かせのスキルアップを目的とした「おはなしボランティア講座」等の研修会を行います。

2 図書館職員のスキルアップ(地域)

市立図書館では、市立図書館司書と市立図書館職員が連携しながら、図書資料や子供の読書活動に関する図書の展示や案内、保護者への助言を行っています。

市立図書館司書や市立図書館職員は、それぞれの役割を果たすために必要な資質・能力等の向上に向け、計画的・継続的な研修に努めます。

目標

- 図書館司書、図書館職員のスキルアップに役立つ研修の実施
 - ◆ 県立図書館主催の研修等へ積極的に参加します。
 - ◆ 市立図書館では、市立図書館職員に必要な資質・能力等の向上に向け、研修会を実施します。

現状

● 分館との連携状況

市立図書館では、各分館担当者や分館の市立図書館職員との情報交換を行い、それぞれの取り組み状況や課題を交流し合う機会を設け、情報の共有を図っています。

また、分館と連携した図書館祭り、図書館システム更新に関わる研修会等を行っています。



市立図書館職員研修

具体的な取り組み

○ 市立図書館司書、市立図書館職員のスキルアップに役立つ研修の実施

- ・ 市立図書館では、市立図書館司書、市立図書館職員に必要な資質・能力等の向上に向け、県立図書館主催の研修会に積極的に参加します。研修内容は、市立図書館職員間で共有します。
- ・ 「おはなしボランティア講座」への参加を呼びかけ、絵本の選書や読み聞かせに関する知識・技能等の向上に努めます



「おはなしボランティア講座」

3 図書司書教諭等のスキルアップ研修(学校)

これからの学校図書館は、読書活動だけでなく、授業などの学習活動等を通じて、児童生徒の言語能力、情報活用能力等の育成を支え、主体的・対話的で深い学びを進める基盤としての役割が重要となります。

そのため、学校における読書活動の推進には、読書の楽しさやすばらしさ、本や資料を使って学ぶことを教える司書教諭^{※13}等の役割が重要です。

目標

① 司書教諭等、図書担当教諭の研修機会の充実

- ◆ 市教育委員会が主催する研修会参加に加え、他の研修会への積極的参加を促します。

② 図書担当教諭の明確な位置付けと機能化

- ◆ 学校図書館の運営・活用が学校全体で組織的に行われるよう、図書担当教諭の機能化を図ります。

現状

● 図書担当教諭の研修の実施状況

毎年、市教育委員会主催の「学校図書館研修会 兼学校司書研修会」を開催しており、この研修会に各学校の図書担当教諭及び学校司書が参加しています。学校図書館に求められる機能や在り方、今日的課題の克服などについて、講話や協議を通して研修しています。また、市教育委員会では、随時、学校の取り組みに対して助言などを行っています。

● 学校における図書担当教諭の状況

各学校において、校内の役割として学校図書館の担当が位置付けられており、目標の達成に向けた活動を行っています。

具体的な取り組み

○ 司書教諭等、図書担当教諭の研修機会の充実

市教育委員会が主催する研修会を、これからの学校図書館に求められる役割や、各学校の図書館活用の状況などを踏まえた内容とし、充実に努めます。また、広島県教育委員会などが主催する研修会への積極的な参加を促します。



学校図書館研修会

○ 図書担当教諭の明確な位置付けと機能化

各学校において図書担当教諭を明確に位置付け、学校司書と連携しながら、学校全体で組織的に学校図書館の運営を行います。

4 学校司書の配置及びスキルアップ研修（学校）

児童生徒の読書活動の推進を第一に考え、専ら学校図書館の職務に従事することのできる学校司書の存在は、学校図書館運営、利活用の充実において、大きな力となります。今後も、学校司書の配置及び学校司書のスキルアップは重要といえます。

目標

① 学校司書の配置の継続

- ◆ 図書館整備や読書活動の充実を図るため、学校司書の配置を今後も継続します。

② 学校司書の研修機会の充実

- ◆ 研修機会の充実を図るとともに、市立図書館職員との連携、情報交換の場を作ります。

現状

● 学校司書の配置状況

市内すべての小中学校において図書館の職務に従事できるよう、平成 28 年度から 10 名の学校司書を配置しています。このことにより、図書館だけでなく各教室など校内の読書環境も整えられ、読書に関する行事の充実や、「図書だより」による児童生徒や保護者への情報発信も行われています。

● 学校司書の研修機会の状況

毎年、学校司書と図書館担当教諭が集まり、学校図書館に求められる機能や在り方、今日的課題の克服などについて研修を行っています。

学校司書を対象とした打ち合わせ会を毎月開催し、活動状況等の情報交換や、スキルアップのための演習などを行っています。



学校司書打ち合わせ会の様子

具体的な取り組み

○ 学校司書の配置の継続

今後も、学校図書館整備や児童生徒が読書を楽しむ活動の充実のために、学校司書の配置を継続します。

○ 学校司書の研修機会の充実

- ・ 学校司書は研修機会に積極的に参加します。
- ・ 学校司書と市立図書館職員が連携し、情報共有を図るため、打ち合わせ会を共同開催するなど、研修や交流の場を設けます。

■ 市立図書館・学校図書館の環境づくり

5 市立図書館の環境(地域)

市立図書館は、市民の生涯学習の支援の場の一つであり、市民の要望や実情を考慮し、資料や情報の提供等の学習支援を行います。特に、子供が読書活動をより身近に感じられるよう、乳幼児、児童・青少年に対する図書資料を整備し、充実したサービスに努めます。

目標

- **利用しやすい市立図書館の整備**
 - ◆ 乳幼児、児童、青少年の発達段階に応じた図書資料の整備・充実を図ります。
 - ◆ 図書資料の適正管理や有効活用に努めます。

現状

● 市立図書館サービスの実施状況

推薦図書等を展示したり、地域や学校行事に関連した図書等を展示したりして、学校での学習と市立図書館での読書がつながるよう工夫しています。また、夏季期間には中学生以上を対象とした学習室を設け、市立図書館で落ち着いて学習できるスペースを提供しています。

● 市立図書館資料の整備

市立図書館では、古くなった図書の廃棄を行うとともに、推薦図書、児童生徒が読みたい図書等を整備し、適切な資料配備に努めています。

● 「インターネット予約」サービスの開始

より多くの人に市立図書館を利用していただけるよう、令和3年10月29日より「インターネット予約」サービスを開始しました。

具体的な取り組み

○ 利用しやすい市立図書館の整備

- ・ 子供が安心して落ち着いて読書や学習等に取り組むことができる環境づくりに努めます。
- ・ 夏季期間、中・高校生が利用できる学習室を設け、学習しやすい環境づくりに努めます。
- ・ 県立図書館と連携し、点字図書やLLブック※¹⁴等のリクエストに応え、貸し出しに努めます。
- ・ 寄贈本の取り扱い基準をもとに図書資料の適正管理に努めます。また、除籍対象の図書について、「リサイクル市」等を通して図書の有効活用を努めます。



「LLブック」の展示

6 学校図書館の環境（学校）

学校図書館は、①児童生徒の読書活動や読書指導の場である「読書センター」としての機能、②児童生徒の学習活動を支援したり、授業の内容を豊かにしてその理解を深めたりする「学習センター」としての機能、③児童生徒や教職員の情報ニーズに対応したり、児童生徒の情報の収集・選択・活用能力を育成したりする「情報センター」としての機能を有しています。

多様な教育活動を展開していくためにも、学校図書館資料を充実させ、児童生徒の健全な教養の育成に資する資料構成と十分な資料規模を備えることが求められます。

また、児童生徒の読書意欲を喚起し、児童生徒の学習に資するよう、館内の配架やコーナーなどを工夫し、安らぎのある環境や知的好奇心を醸成する開かれた学びの場としての環境を整えることが大切です。

目標

① 学校図書館の環境整備の充実

- ◆ 学校図書館図書標準^{*15}を達成している小学校 80%以上、中学校 50%以上を目指します。
- ◆ 計画的に新しい辞書や事典、新聞の配備を行い、資料の適正な整備・充実を図ります。
- ◆ 児童生徒にとって魅力的な学校図書館となるよう、季節や学習内容に応じた掲示・展示のコーナーの設置、館内の配架地図や書架の見出しの設置などを行います。

② 学校図書館のデータベース化の推進及び共有

- ◆ データベース化による蔵書管理と、学校間のデータベースの共有による連携を図ります。

現状

● 学校図書館の環境整備状況

	学校図書館図書標準を達成している学校
小学校	68.4%
中学校	28.6%

令和2年度庄原市教育委員会調べ



高小学校 図書委員による新聞の入れ替え

市内すべての小中学校において、調べ学習に対応できるよう、辞書や事典、新聞が配備されています。

しかし、辞書や事典が古く、資料として十分でないものもあり、計画的な廃棄と配備が必要です。また、多くの学校が、児童生徒が手に取りやすいよう新聞の配架を工夫しています。

● 学校図書館のデータベース化

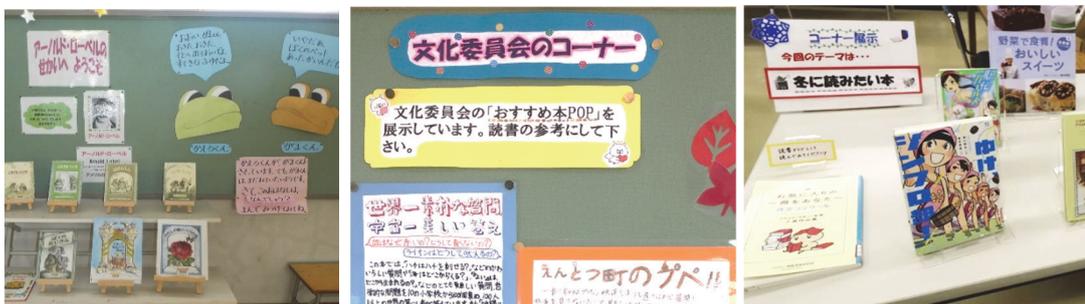
市内すべての学校において、エクセル管理によりデータベース化されていますが、古い蔵書も多くあるためデータの照合が必要です。

学校間インターネット環境の活用により他校の蔵書データの閲覧が可能であるため、授業で使用する図書については、学校間での図書の貸し出しが行われています。

具体的な取り組み

○ 学校図書館の環境整備の充実

- ・ 適正な資料配備に向け、学校図書館図書標準と廃棄基準に基づき、計画的に図書の廃棄、配備を行います。推薦図書、課題図書、事典、図鑑などのほか、児童生徒が読みたい図書も整備し、適正な資料配備に努めます。
- ・ 辞書や事典などを計画的に更新するとともに、新聞の配備を継続し、読書センターとしての機能に加え、学習センター、情報センターとしての機能の充実を図ります。
- ・ 児童生徒の読書への関心や意欲を高めたり、児童生徒が調べ学習や探究的な学習に必要な資料を収集したりすることができるよう、季節や学習内容等に応じた掲示・展示のコーナーの設置を行います。また、児童生徒が自ら資料を探ることができるよう、館内の配架地図や書架の見出しの設置などを行います。



比和小学校 学習関連コーナー 西城中学校 文化委員会のコーナー 総領中学校 季節のコーナー



庄原小学校 配架地図と実際の配架

○ 学校図書館のデータベース化の推進及び共有

- ・ 学校図書館の蔵書データと実際の蔵書の照合を行います。
- ・ 学校間インターネット環境を活用した学校間図書貸し出しがより一層進むよう、仕組みを作ります。

7 市立図書館と学校図書館との連携(地域・学校)

子供の読書活動への関心をより高めるためには、興味をもつ図書に巡り合う機会を増やすことが大切と考えます。子供が幅広い分野の図書に触れる機会を増やし、楽しく読書活動に取り組んだり、授業で活用したりするために、市立図書館と学校が連携し、図書館資料の貸し出しを行うなど、子供の読書環境の充実に努めています。

目標

① 市立図書館と学校が連携した図書資料の貸出

- ◆ 市立図書館は、学校と連携し、調べ学習等の支援を行います。

② 県立広島大学庄原キャンパス図書館との連携

- ◆ 県立広島大学庄原キャンパス図書館の情報提供を行います。

③ 「子供司書」養成講座、中学生職場体験学習の受け入れ

- ◆ 市立図書館は、子供の読書への興味・関心・意欲を高めるため、「子供司書」養成講座、中学生職場体験学習を受け入れ、研修内容の充実に努めます。

現状

● 市立図書館と学校司書との連携

市立図書館や学校では、それぞれが主体的に子供の読書活動を推進させるための取り組みを行ってきました。また、学校司書の打ち合わせ会や研修会には市立図書館司書も参加し、互いの情報を交流し合う機会も設定しました。

● 県立広島大学庄原キャンパス図書館との連携



県立広島大学庄原キャンパス図書館からの寄贈本(一例)

県立広島大学庄原キャンパス図書館には生命環境科学を中心に、約 20 万冊の図書が揃っています。その他にも、一般図書、広島県の郷土史、視聴覚資料のほか、絵本などの児童書もあります。

また、市立図書館には所蔵していない貴重な書籍を庄原キャンパス図書館から数多く寄贈していただき、図書の有効活用等を図っています。

● 「子供司書」養成講座、中学校職場体験学習の受け入れ

教育委員会や小学校、中学校と連携し、「子供司書」養成講座の開催や中学生職場体験学習の受け入れを行い、市立図書館での体験活動を通して読書活動の充実に努める活動をしています。

具体的な取り組み



- **市立図書館と学校が連携した図書資料の貸出**
市立図書館では、学校と連携を図り、学校での読書活動や、授業等での調べ学習に必要な資料や情報の収集・提供に努めます。

「夏休みの自由研究」資料展示

- **県立広島大学庄原キャンパス図書館との連携**

県立広島大学庄原キャンパス図書館と連携を図り、庄原キャンパス図書館の特徴や一般の図書館利用等のサービス内容について「図書館だより」等を通して学校や家庭に紹介していきます。



庄原キャンパス図書館内

- **「子供司書」養成講座、中学生職場体験学習の受け入れ**

- ・ 市立図書館では、小学校と連携して「子供司書」が子ども読書推進リーダーとして活躍できる場の提供や研修内容の充実を図ります。
- ・ 市立図書館では、中学校と連携して中学生の職場体験学習を受け入れ、図書に関する業務や接客業務などの市立図書館での体験学習を通して、本に対する興味・関心を高めるきっかけづくりを行います。



「子供司書」研修の様子



中学校職場体験学習(庄原中)

<参考> 用語解説

番号	用語	解説
※1	アウトメディア	テレビやスマートフォンなどの電子メディアと接触する時間を改善すること
※2	親プロ	子育ての段階に応じた身近なエピソードを基に、保護者同士が話し合う中で、親として「自ら気づき、学ぶ力」を高めていくことを目的としたプログラム
※3	ポップ	図書館でいう「ポップ」とは、本を読みたい気持ちにさせる文章やイラスト
※4	ヤングアダルトコーナー	13歳から18歳の青少年を対象とした図書コーナー
※5	ブックスタート	乳幼児と保護者に読み聞かせの体験等を行い、家族のコミュニケーションを促す活動 本市では4か月児と1歳6か月児の保護者を対象に事業を行っている。
※6	子ども読書の日	国民の間に広く子供の読書活動について関心と理解を深めるとともに、子供が積極的に読書活動を行う意欲を高めるため設定された日 4月23日
※7	読書週間	読書の普及をはかるために設定された週間です 10月27日～11月9日
※8	不読率	1か月に一冊も読まない子供の割合
※9	ビブリオバトル	書評合戦(ビブリオバトル)の基本的なルールは、以下のとおりである。 ① 発表者が読んで面白いと思った本を持って集まる。 ② 順番に一人5分間で本を紹介する。それぞれの発表後に参加者全員でその発表に関する意見交換を2～3分程度で行う。 ③ 全ての発表が終了した後に、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で決定する。 書評合戦(ビブリオバトル)の効果としては、ゲーム感覚で楽しみながら本に関心を持つことができること、自ら本を選ぶ力、語る力が育つこと、読んでみたいと思える本に出会える機会が増えること等が挙げられる。

番号	用語	解説
※10	学校司書	学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童・生徒・教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、学校図書館の職務に従事する職員
※11	ブックトーク	相手に本のあらすじや著者の紹介を交えて、本への興味がわくような工夫を凝らしながら本の内容を紹介すること
※12	古典の日	国民の間に広く古典についての関心と理解を深めるように設定された日 11月1日
※13	司書教諭	「学校図書館司書養成講座」による科目を履修した教員で、任命権者によって司書教諭として発令を受けた教員
※14	LLブック	「LL」とはスウェーデン語の L ä t t l ä s t の略で「やさしく読みやすい」という意味 それぞれの生活年齢に合った内容が、読むことが苦手な人のために読みやすく書かれた本
※15	学校図書館図書標準	公立の義務教育学校において、学校図書館の図書の整備を図る際の目標として設定したものの学級数に対しての蔵書冊数を規定



高野分館絵本紹介コーナー

子供の読書活動推進計画(第三次計画)検証一覧

評価 : 達成した・・・A 概ね達成した・・・B 一部達成した・・・C 達成できなかった・・・D

継続性 : 引き続き実施する・・・A 内容を一部変更して継続する・・・B 内容を変更する・・・C 廃止する・・・D

四次計画への反映 : 三次計画の検証結果をふまえ、四次計画で実施するページを記載

目標	基本施策	施策の具体的な取り組み	評価	継続性	四次計画への反映
本に親しむ	1 乳幼児期からの本の読み聞かせ	1 幼稚園教諭や保育士、読書ボランティアにより毎日の読み聞かせを継続して行います。	A	A	10
		2 幼稚園や保育所等では、絵本の持ち帰りや、保護者に対するおすすめ絵本の紹介により、絵本をとおして親子のふれあいの時間、読書環境の充実を図ります。	A	A	10
		3 市立図書館では、乳幼児向けの図書や保護者向けの読書推進に関する図書を計画的に収集します。	A	A	10
		4 市立図書館と子育て関係施設が連携し、子育て関係施設の絵本の入替や巡回の仕組みづくりを行います。	C	B	10
		5 乳幼児期から親子で絵本に親しむきっかけづくりとして、「赤ちゃんが絵本に触れ合う活動」を継続します。	A	A	5
	2 推薦図書の紹介	6 児童生徒に読ませたい本を明確化するため、図書担当教諭や学校司書を中心に、おすすめ本の選定・リストの作成を行います。	A	A	12
		7 選定したおすすめ本は、読み聞かせやブックトーク等の実施、コーナー設置、「図書室だより」への掲載などにより、児童生徒や家庭に周知します。	B	A	12
		8 書店等との連携により、子供が興味や関心を持ち意欲的に読書ができるような幅広い種類の本を選書します。	A	A	8
		9 子供と本との出会いの機会を増やすため、学校や子育て関係施設におすすめの本や企画展などの情報を積極的に提供します。	B	A	8
	3 イベントを通じた読書活動の普及・啓発	10 「子ども読書の日」「古典の日」を年間指導計画に位置付け、教科・領域との関連を図った取り組みを継続します。	B	A	14
		11 児童生徒の読書意欲を高めるため、「子ども読書の日」「古典の日」にあわせ、テーマに合った企画や展示を行います。	A	A	14
		12 市立図書館の利用促進のため、季節や時事、行事等にあわせてテーマを定め、映像や音楽なども工夫して活用し、読書の世界へ引き込まれるような、また幅広く興味をもってもらえるような企画展示を行います。	A	A	8
		13 おはなし会や図書のポップ、しおりづくりのワークショップなど、子供自身が図書への興味や関心をもつような企画の実施や情報発信を行います。	B	B	8
庄原の子供はいつも読んでいる本が靴に入っている	4 学校における全校一斉読書活動の推進	14 地域の読書ボランティアなどと連携した「朝の読書活動」や「絵本祭り」の実施を継続します。	B	B	14
		15 学校図書室を利用する動機付けとするため、読書ボランティアなどが読み聞かせや紹介した図書を学校図書室に配架します。	B	A	12・26
		16 おすすめ本を紹介しあう機会として、児童生徒自身が「読んで面白かった」「参考になった」図書のポップづくりなどを行います。	A	A	14
		17 学校図書の購入の際には、推薦図書、課題図書のほか、児童生徒の意見も取り入れていきます。	B	A	14・26
		18 読書をしない児童生徒に対して、その要因を分析し、教師や学校司書等を中心に、幅広い分野から興味を示す図書を提案するなど、読書意欲の向上につながる取り組みを行います。	B	A	14
	5 市立図書館における読書活動の推進	19 学校、子育て関係施設や各種団体に対し、おすすめの本や企画展示などの情報を「図書館だより」やホームページで積極的に提供していきます。	B	A	18
		20 子供が読みたいと思う本や調べ物への相談に応じます。	A	A	25
		21 中学校・高校と連携した企画や展示を行い、中高校生の利用を促進させます。	B	B	5・18
		22 夏季休業期間の高校生以上を対象とした学習室は、利用対象年齢を拡大し、中学生以上が利用できる学習しやすい環境を提供します。	A	A	25
		23 子供が読書活動や情報収集、学習など、安心して、落ち着いて取り組むことができ、また訪れやすく「明日も来てみよう」と思えるような読書の楽しさを味わえる環境づくりを行います。	B	A	25
		24 読書ボランティアと連携したおはなし会などの企画実施に努めます。	A	A	8
	6 学校・家庭・地域との連携	25 読書ボランティアがより充実した活動が続けられるよう、スキルアップのための研修会を開催します。	A	A	21
		26 県立広島大学庄原キャンパス図書館の特徴や利便性などを読書ボランティアと連携して学校や家庭に広く紹介し、活用を促していきます。	C	C	28
27 図書館利用の促進と読書機会の充実を図るため、地域の特色を生かし、自治振興区事業と連携した事業を展開します。		B	A	5	
たくさん読む	本を読むことの習慣化	19 学校、子育て関係施設や各種団体に対し、おすすめの本や企画展示などの情報を「図書館だより」やホームページで積極的に提供していきます。	B	A	18
		20 子供が読みたいと思う本や調べ物への相談に応じます。	A	A	25
		21 中学校・高校と連携した企画や展示を行い、中高校生の利用を促進させます。	B	B	5・18
		22 夏季休業期間の高校生以上を対象とした学習室は、利用対象年齢を拡大し、中学生以上が利用できる学習しやすい環境を提供します。	A	A	25
		23 子供が読書活動や情報収集、学習など、安心して、落ち着いて取り組むことができ、また訪れやすく「明日も来てみよう」と思えるような読書の楽しさを味わえる環境づくりを行います。	B	A	25
	6 学校・家庭・地域との連携	24 読書ボランティアと連携したおはなし会などの企画実施に努めます。	A	A	8
		25 読書ボランティアがより充実した活動が続けられるよう、スキルアップのための研修会を開催します。	A	A	21
		26 県立広島大学庄原キャンパス図書館の特徴や利便性などを読書ボランティアと連携して学校や家庭に広く紹介し、活用を促していきます。	C	C	28
	本を読むことの習慣化	27 図書館利用の促進と読書機会の充実を図るため、地域の特色を生かし、自治振興区事業と連携した事業を展開します。	B	A	5

目標	基本施策	施策の具体的な取り組み	評価	継続性	四次計画への反映
		28 学校、幼稚園、保育所等に対し、保護者が読み聞かせの大切さや工夫などについて学ぶことができる参加・体験型プログラムの学習機会を提供し、読書活動促進に取り組みます。	B	A	10
		29 家庭においても子供と一緒にアウトメディアに取り組むよう呼びかけ、家族のふれあいや図書館で過ごす時間を増やし、読書活動に結びつけます。	B	A	5
		30 学校や幼稚園、保育所等では、アウトメディアに取り組む際に、図書に触れる機会を増やすため、積極的に本を貸し出します。	A	A	5
目的に応じて読む	本を読む力の育成	31 発達段階を踏まえ、計画を毎年見直し、図書担当教諭と学校司書が連携した取り組みをすすめます。	B	A	12・16
		32 百科事典などの資料を活用しながら、国語科や社会科、理科、総合的な学習の時間などを中心に児童生徒自身が考える授業を継続します。	B	B	16
		33 読んでいる本についての感想や心に残った一文を書き留める活動、本や資料を活用して調べ学習を家庭でも取り組むよう推進します。	B	B	19
本から学び自ら考えを深める	本を読んで自分の生き方を考え、表現する機会の提供	34 本から自分の生き方について考えていくため、全国青少年読書感想文コンクールや「ことばの輝き」優秀作品コンクールなど、様々なコンクールへの積極的な応募を促します。	B	A	19
		35 小中学校において、朝の読書活動や絵本祭りなどの時間を活用し、読んだ本について児童生徒や家族が感想を語り合い、交流する機会を設定します。	C	B	19
		36 平成30年度からはじまる「広島版『学びの変革』アクション・プラン」全県展開に向け、学校や市立図書館では、参考図書や図鑑等の充実に努めます。	B	B	26
		37 「調べ学習」の発表の機会、情報共有の場として、市立図書館で図書を活用した学習の成果物の展示を行います。	D	C	16
	体験活動への展開	38 子供読書活動推進リーダーを育成するため、「子供司書」養成講座を継続して実施します。	A	A	12
		39 市立図書館や学校では、「子供司書」が子供読書活動推進リーダーとして活躍できる場の提供や充実する研修内容をつくります。	A	A	12・28
		40 市立図書館や学校において、読むことだけにとどまらず、言葉の力や表現力を養い、他者の図書紹介を聞くことにより、子供の興味・関心を広げ、幅広い読書活動につなげるため、ビブリオバトルなどの実施・充実に努めます。	B	A	12
読書環境を整える	10 学校図書室の読書、学習・情報センターとしての充実	41 学校図書室の古くなった図書の廃棄基準を定め、基準に沿った廃棄を行うとともに、推薦図書、課題図書、事典・図鑑などのほか、児童生徒が読みたい図書なども整備し、適正な資料配備に努めます。	C	A	26
		42 新聞の配架を工夫し、児童生徒が手に取りやすい環境をつくります。	B	A	26
		43 電子データと蔵書の照合を行います。	B	A	26
		44 学校間のインターネット環境を活用し、他校の蔵書データの閲覧、学校間での図書の貸し出しができる仕組みをつくります。	B	B	26
	11 市立図書館資料の整備・充実	45 総合的な学習の時間など幅広い場面で利用できるよう、幅広いテーマの辞書や図鑑の収集に努めます。	A	A	25
		46 児童期・青少年期に読んでもらいたい図書などの充実を図ります。	A	A	25
		47 廃校・休校で活用されなくなった図書を他の施設で活用します。	A	B	25
		48 市立図書館や学校で除籍の対象となった図書について、書店等と連携し、市民に向けた「リサイクル市」を開催し、図書に有効活用に努めます。	A	A	25
		49 寄贈図書の取り扱い基準を設け、図書資料の適正管理に努めます。	A	A	25
		50 郷土に対する理解や関心が深まり、大人になっても「庄原や広島が好き」と感じてもらえる資料収集を目指します。	A	A	28
	12 司書等の配置、養成及び研修等の充実	51 市民サービスの向上を図るため、市立図書館に司書資格等を有する職員の配置に努めます。	A	A	22
		52 市立図書館職員(司書含)は、職員研修を定期的に開催し、自己研鑽に努めます。	A	A	22
		53 図書担当教諭と学校司書は、研修機会に積極的に参加します。	A	A	23・24
54 市立図書館職員と学校司書が情報共有を図るため、研修や交流の場を設けます。		B	B	28	
13 子供の読書活動推進体制の整備	55 市内を分館エリアで区分し、市立図書館職員がコーディネーターとなり、学校、読書ボランティア、書店等が情報を共有できる場を設定します。	B	B	9	
	56 各エリアで出た意見やアイデアなど、様々な情報を市立図書館で集約し、推進計画の効果的な取り組みにつながるよう着実な実践を行います。	B	A	9	
	57 効果的な事業実施を継続させるため、庁内関係課による会議及び庄原市立図書館協議会において、毎年それぞれ計画している内容の進捗状況を確認します。	A	A	4	



庄原市子供の読書活動推進計画（第四次計画）

発行：庄原市教育委員会

〒727-8501 広島県庄原市中本町一丁目 10 番 1 号

電話：0824-73-1188 FAX：0824-73-1254

市HP：<http://www.city.shobara.hiroshima.jp/>

Eメール：shobara@city.shobara.lg.jp

